

よく話しをしているのは、父親が78.1%、母親が86.1%であった。時々話しをしているを合わせても、父親よりも母親のほうが子どもと普段話しをしていた(表1-1)。

よくする親子の会話の内容(複数回答)は、「学校の話」1984名(80.2%)、「友達の話」1797名(72.7%)を回答したものが多かった(表1-2)。

子どもとのつながり感をもっている保護者では「友達の話」、子どもとのつながり感が持っていない保護者では「テレビの話」が、有意に高い会話の内容であった(表1-3,4)。

また、低学年である、女兒をもつ保護者、夫婦の仲がよい関係である保護者、親子のつながり感をもっている保護者のほうが、普段子どもと会話をしていた(表1-5~8)。

2. 親子での遊び

「よく遊べている」「時々遊べている」を合わせると63.5%であった。36.5%の保護者は、普段子どもと遊べていなかった(表2-1)。

よくする親子の遊びの内容(複数回答)は、「デパート等に出かける」1372名(56.3%)を回答したものが最も多かった(表2-2)。

子育て不向き感と遊びの内容の関連をみると、子育てに不向きさを感じている保護者では「TVゲーム」、子育てに不向きさを感じていない保護者では「スポーツ」が、有意に高い遊びの内容であった(表2-3,4)。

低学年である、女兒をもつ保護者、夫婦の仲がよい関係である保護者、親子のつながり感をもっている保護者のほうが、普段親子で遊んでいた(表2-5~8)。

3. 親子での充実した時間が過ごせているか

「十分過ごせている」「ある程度過ごせている」を合わせると84.4%であり、多くの保護者が子どもと充実した時間を過ごせていることがわかった。

年齢の高い保護者、就労していない、夫婦の仲がよい関係である保護者、親子のつながり感がある保護者のほうが充実した時間を過ごせていた(表3-1~3)。

4. 子どもとのつながり感

「十分持てている」「ある程度持てている」を合わせると97.3%であり、ほとんどの保護者が子どもとつながっていると感じていることがわかった。

年齢が高い保護者、夫婦の仲がよい関係である保護者のほうが子どもとのつながり感を持っていた。子どもの学年、子どもの性別、保護者の就労状況に関連はなかった(表4-1,2)。

5. 子育て不向き感

「よく感じることもある」「時々感じることもある」を合わせると55.5%であった。半数以上の保護者が自分は子育てに向いていないと感じることがあることがわかった。

年齢が若い保護者、低学年である、就労していない保護者、夫婦の仲が悪い関係の保護者のほうが、子育て不向き感をもっていた(表5-1~4)。

6. 親子関係総得点に関連する項目

表6-1~5は、設問項目「親子の会話」「親子での遊び」「親子での充実した時間が過ごせている」「親子のつながり感」「子育て不向き感」の5項目をそれぞれ1~4点として処理した。高得点のほうが親子関係がよい状態とみなした。

親子関係総得点が高得点であったものは、父親である、年齢の高い保護者、下校時に在宅している保護者、女兒をもつ保護者、兄弟数が少ない保護者であり、これらの要因に有意な関連があることがわかった。

7. 同性の友達との群れ遊び

「よくしている」「時々している」を合わせると83.0%いた。

男児を持つ保護者、低学年である、常勤勤務の保護者、下校時不在である保護者のほうが、その子どもは同性の友達と群れ遊びをしていた(表7-1~3)。

8. 他年代世代との交流

他年代世代との交流の機会が「時々ある」が47.9%と最も多かった。「ほとんどない」「まったくない」を合わせると23.4%であった。

低学年である、年齢が若い保護者の子どものほうが多く、有意に関連があった(表8-1,2)。

交流内容(複数回答)は「習い事」1293名(55.9%)、「近隣の人」1262名(54.6%)、「学校

の行事」1042名(45.1%)が多かった(表8-1~3)。

9. ボランティア活動経験

ボランティア活動経験は、まったくしたことがないが70.2%であった。現在活動している子どもは2.9%であり、少なかった。

ボランティア活動経験があると回答したのは、高学年である、女兒である保護者のほうであった。(表9-1,2)

10. 家庭内と地域の環境

家庭内が子どもにとって過ごしやすい環境に整っているかについて、「十分になっている」「ある程度になっている」を合わせて90.7%であった(表10)。

住まいの地域が子どもにとって過ごしやすい環境に整っているかについて、「十分になっている」「ある程度になっている」を合わせて92.9%であった(表11)

地域の環境をよくするために、保護者自身が継続してできる取り組み(複数回答)については、「近所の人に挨拶する」を回答しているものが96.3%が多かった。

子どもたちへの犯罪防止取り組みである「子どもたちの安全のために、登下校時に散歩する」は8.2%、「知らない人にも挨拶する」は12.0%であり、回答したものは少なかった(表12)。

11. 子どもの未来は明るいものであるか

今の環境で育った子ども達が大人になったとき、その未来は明るいものであると思うかについて、「あまり思わない」「まったく思わない」を合わせて38.0%のものが明るいものと思わないと回答していた(表13-1)。

子どもたちの未来が明るいと考える保護者は、父親のほうが多く、兄弟数は少ないほうが多い傾向にあった(表13-2,3)。

群れ遊びをしている、他年代交流がある、家庭内環境が整っている、地域環境が整っていると、子どもたちの未来が明るいものであるという保護者の考えとの関連がみられた。ボランティア活動経験との関連はなかった(表13-4~7)。

V. 考察

親子関係や環境は、いずれも比較的安定している傾向がうかがえた結果であった。

一方で、今の環境で育った子どもたちの未来が明るいものなると思っていない保護者が多かった。今後の子どもたちの未来に対し、大人が肯定的展望を抱けていない傾向にあることが伺えた。

子どもたちが健やかに成長していけるために、地域全体でのまちづくりに向けた課題があると思われる。

VI. まとめ

小学生をもつ保護者を対象に、親子関係・環境について、調査をおこなった。得られた知見を以下に示す。

1. 小学生の親子は、99.3%が普段会話をしていた。
2. 子どもとのつながり感を持っているものの親子の会話内容は、「友達の話」に関連がみられた。子どもとのつながり感が持てていないものでは、「テレビの話」に関連がみられた。
3. 小学生の親子では、63.5%が普段遊べていた。
4. 子どもとのつながり感を持っているものは、97.3%であった。
5. 子育てに向いていないと感じているものは、55.5%であった。
6. 親子関係総得点より親子関係が安定している傾向にあったものは、父親である、年齢が高い保護者、下校時に在宅している保護者、女兒を持つ保護者、兄弟数が少ない保護者であった。
7. 同性の友達との群れ遊びをしている子どもは、83.0%であった。
8. 他年代世代との交流の機会がある子どもは、76.6%であった。
9. ボランティア活動経験がある子どもは29.8%であり、現在活動している子どもは2.9%と少なかった。
10. 家庭内・地域の環境は、それぞれ90.7%、92.9%の保護者が子どもにとって過ごしやすい環境と感じている回答が得られた。
11. 今の環境で育った子どもたちの未来が明るいと思う保護者が38.0%いた。
12. 群れ遊びをしている、他年代世代との交流が

ある、家庭内環境が整っている、地域環境が整っていると回答した保護者のほうが、子ども達の未来が明るいと思っていた。

VII. 参考文献

1. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，日本性教育協会（JASE）研究月報，2004.5
2. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005.1
3. 松浦賢長，他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003

4. 松浦賢長，他：新しい性教育の展開に関する基礎的研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
5. 松浦賢長，他：親子間の性に関する会話と子どもの性行動との関連，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
6. 松浦賢長，他：性に関する情報源と性知識を得るべき年齢に関する全国無作為抽出調査，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
7. 男女の生活と意識に関する調査，日本家族計画協会，2002
8. 健やか親子21検討会，健やか親子21検討会報告書—母子保健の2010年までの国民運動計画—，厚生省（現厚生労働省）

表1-1 回答者と親子の会話との関係

	Q01 親子の会話の頻度			合計		
	1 よく話しをする	2 時々話しをする	3 ほとんど話しをしない			
回答者	1 父親	度数	132	35	2	169
		A 回答者の%	78.1%	20.7%	1.2%	100.0%
	2 母親	度数	1915	296	14	2225
		A 回答者の%	86.1%	13.3%	.6%	100.0%
	3 その他	度数	9	1	2	12
		A 回答者の%	75.0%	8.3%	16.7%	100.0%
合計	度数	2056	332	18	2406	
	A 回答者の%	85.5%	13.8%	.7%	100.0%	

p<0.01

表1-2 会話内容

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
友達の話	Q02-1	1765	23.3	73.0
学校の話	Q02-2	1935	25.6	80.0
家族の話	Q02-3	623	8.2	25.8
先生の話	Q02-4	221	2.9	9.1
勉強の話	Q02-5	346	4.6	14.3
塾の話	Q02-6	95	1.3	3.9
趣味の話	Q02-7	386	5.1	16.0
遊びの話	Q02-8	887	11.7	36.7
テレビの話	Q02-9	598	7.9	24.7
悩み・心配事	Q02-10	121	1.6	5.0
将来の話	Q02-11	118	1.6	4.9
世の中のこと	Q02-12	262	3.5	10.8
からだのこと	Q02-13	69	.9	2.9
好きな子の話	Q02-14	38	.5	1.6
性に関する話	Q02-15	9	.1	.4
その他	Q02-16	90	1.2	3.7
	Total responses	7563	100.0	312.8

3 missing cases; 2,418 valid cases

表1-3 Q6 親子のつながり感とQ02-1 友達の話との関係

			Q02-1 友達の話		合計
			0 非選択	1 選択	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	247	808	1055
		Q6 親子のつながり感の%	23.4%	76.6%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	377	912	1289
		Q6 親子のつながり感の%	29.2%	70.8%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	25	41	66
		Q6 親子のつながり感の%	37.9%	62.1%	100.0%
合計	度数	649	1761	2410	
	Q6 親子のつながり感の%	26.9%	73.1%	100.0%	

p < 0.01

表1-4 Q6 親子のつながり感とQ02-9 テレビの話との関係

			Q02-9 テレビの話		合計
			0 非選択	1 選択	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	834	222	1056
		Q6 親子のつながり感の%	79.0%	21.0%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	933	355	1288
		Q6 親子のつながり感の%	72.4%	27.6%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	45	21	66
		Q6 親子のつながり感の%	68.2%	31.8%	100.0%
合計	度数	1812	598	2410	
	Q6 親子のつながり感の%	75.2%	24.8%	100.0%	

p < 0.01

表1-5 子どもの学年と親子の会話との関係

			Q01 親子の会話の頻度			合計
			1 よく話しをする	2 時々話しをする	3 ほとんど話しをしない	
H,H 学年変換(低・中・高学年別)	1 低学年(1-2年生)	度数	453	44	3	500
		H,H 学年変換(低・中・高学年別)の%	90.6%	8.8%	.6%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	672	103	5	780
		H,H 学年変換(低・中・高学年別)の%	86.2%	13.2%	.6%	100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数	918	182	10	1110
		H,H 学年変換(低・中・高学年別)の%	82.7%	16.4%	.9%	100.0%
合計	度数	2043	329	18	2390	
	H,H 学年変換(低・中・高学年別)の%	85.5%	13.8%	.8%	100.0%	

p < 0.01

表1-6 子どもの性別と親子の会話との関係

			Q01 親子の会話の頻度			合計
			1 よく話しをする	2 時々話しをする	3 ほとんど話しをしない	
子どもの性別	1 男	度数	1001	186	13	1200
		G 子どもの性別の%	83.4%	15.5%	1.1%	100.0%
	2 女	度数	1046	142	5	1193
		G 子どもの性別の%	87.7%	11.9%	.4%	100.0%
合計	度数	2047	328	18	2393	
	G 子どもの性別の%	85.5%	13.7%	.8%	100.0%	

p < 0.01

表1-7 夫婦の仲と親子の会話との関係

			Q01 親子の会話の頻度			合計
			1 よく話しをする	2 時々話しをする	3 ほとんど話しをしない	
Q21F 夫婦の仲	1 夫婦の仲がよい	度数	1680	258	11	1949
		Q21F 夫婦の仲の%	86.2%	13.2%	.6%	100.0%
	2 夫婦の仲が悪い	度数	169	39	4	212
		Q21F 夫婦の仲の%	79.7%	18.4%	1.9%	100.0%
合計	度数	1849	297	15	2161	
	Q21F 夫婦の仲の%	85.6%	13.7%	.7%	100.0%	

p<0.01

表1-8 親子のつながり感と親子の会話との関係

			Q01 親子の会話の頻度			合計
			1 よく話しをする	2 時々話しをする	3 ほとんど話しをしない	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	1000	53	1	1054
		Q6 親子のつながり感の%	94.9%	5.0%	.1%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	1018	254	10	1282
		Q6 親子のつながり感の%	79.4%	19.8%	.8%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	33	26	7	66
		Q6 親子のつながり感の%	50.0%	39.4%	10.6%	100.0%
合計	度数	2051	333	18	2402	
	Q6 親子のつながり感の%	85.4%	13.9%	.7%	100.0%	

p<0.01

表2-1 回答者と親子での遊びの頻度のクロス表

			Q03 親子での遊びの頻度				合計
			1 よく遊べている	2 時々遊べている	3 ほとんど遊べていない	4 まったく遊べていない	
A 回答者	1 父親	度数	44	84	41	0	169
		A 回答者の%	26.0%	49.7%	24.3%	.0%	100.0%
	2 母親	度数	266	1126	765	67	2224
		A 回答者の%	12.0%	50.6%	34.4%	3.0%	100.0%
	3 その他	度数	1	5	3	1	10
		A 回答者の%	10.0%	50.0%	30.0%	10.0%	100.0%
合計	度数	311	1215	809	68	2403	
	A 回答者の%	12.9%	50.6%	33.7%	2.8%	100.0%	

p<0.01

表2-2 親子での遊び内容

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
絵本の読み聞かせ	Q04-1	312	5.1	13.6
歌や手遊び	Q04-2	223	3.6	9.7
ごっこ遊び	Q04-3	104	1.7	4.5
公園で遊ぶ	Q04-4	475	7.7	20.7
デパート等に出かける	Q04-5	1339	21.7	58.4
遊園地、動物園等に出かける	Q04-6	652	10.6	28.4
お絵かき	Q04-7	136	2.2	5.9
TVゲーム	Q04-8	338	5.5	14.7
スポーツ	Q04-9	695	11.3	30.3
桌上ゲーム	Q04-10	415	6.7	18.1

パソコン	Q04-11	265	4.3	11.6
お人形遊び	Q04-12	26	.4	1.1
お菓子作り	Q04-13	328	5.3	14.3
おりがみ	Q04-14	99	1.6	4.3
虫取り・お花摘み	Q04-15	190	3.1	8.3
ペットと遊ぶ	Q04-16	302	4.9	13.2
その他	Q04-17	268	4.3	11.7

Total responses 6167 100.0 268.9

128 missing cases; 2,293 valid cases

表2-3 子育て不向き感とQ04-8 TVゲームとの関係

			Q04-8 TVゲーム		合計
			0 非選択	1 選択	
Q8 子育て 不向き 感	1 よく感じる ことがある	度数	152	17	169
		Q8 子育て不向き感の%	89.9%	10.1%	100.0%
	2 時々感じる ことがある	度数	951	189	1140
		Q8 子育て不向き感の%	83.4%	16.6%	100.0%
	3 あまり感じる ことはない	度数	768	107	875
		Q8 子育て不向き感の%	87.8%	12.2%	100.0%
	4 まったく感じる ことはない	度数	157	19	176
		Q8 子育て不向き感の%	89.2%	10.8%	100.0%
合計	度数	2028	332	2360	
	Q8 子育て不向き感の%	85.9%	14.1%	100.0%	

p < 0.01

表2-4 子育て不向き感とQ04-9 スポーツとの関係

			Q04-9 スポーツ		合計
			0 非選択	1 選択	
Q8 子育て 不向き 感	1 よく感じる ことがある	度数	133	36	169
		Q8 子育て不向き感の%	78.7%	21.3%	100.0%
	2 時々感じる ことがある	度数	833	308	1141
		Q8 子育て不向き感の%	73.0%	27.0%	100.0%
	3 あまり感じる ことはない	度数	599	276	875
		Q8 子育て不向き感の%	68.5%	31.5%	100.0%
	4 まったく感じる ことはない	度数	111	65	176
		Q8 子育て不向き感の%	63.1%	36.9%	100.0%
合計	度数	1676	685	2361	
	Q8 子育て不向き感の%	71.0%	29.0%	100.0%	

p < 0.01

表2-5 子どもの学年と親子での遊びとの関係

		Q03 親子での遊びの頻度				合計	
		1 よく遊べている	2 時々遊べている	3 ほとんど遊べていない	4 まったく遊べていない		
子どもの学年	1 低学年(1-2年生)	度数	86	265	135	4	500
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	19.2%	53.0%	27.0%	.8%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	97	409	260	17	783
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	12.4%	52.2%	33.2%	2.2%	100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数	114	535	409	47	1105
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	10.3%	48.4%	37.0%	4.3%	100.0%
合計	度数	307	1209	804	68	2388	
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	12.9%	50.6%	33.7%	2.8%	100.0%	

p < 0.01

表2-6 子どもの性別と親子での遊びの頻度との関係

		Q03 親子での遊びの頻度				合計	
		1 よく遊べている	2 時々遊べている	3 ほとんど遊べていない	4 まったく遊べていない		
子どもの性別	1 男	度数	142	580	437	41	1200
		G 子どもの性別の%	11.8%	48.3%	36.4%	3.4%	100.0%
	2 女	度数	167	631	366	27	1191
		G 子どもの性別の%	14.0%	53.0%	30.7%	2.3%	100.0%
合計	度数	309	1211	803	68	2391	
	G 子どもの性別の%	12.9%	50.6%	33.6%	2.8%	100.0%	

p < 0.01

表2-7 夫婦の仲と親子での遊びの頻度との関係

		Q03 親子での遊びの頻度				合計	
		1 よく遊べている	2 時々遊べている	3 ほとんど遊べていない	4 まったく遊べていない		
夫婦の仲	1 夫婦の仲がよい	度数	277	1003	620	46	1946
		Q21F 夫婦の仲の%	14.2%	51.5%	31.9%	2.4%	100.0%
	2 夫婦の仲が悪い	度数	16	97	91	10	214
		Q21F 夫婦の仲の%	7.5%	45.3%	42.5%	4.7%	100.0%
合計	度数	293	1100	711	56	2160	
	Q21F 夫婦の仲の%	13.6%	50.9%	32.9%	2.6%	100.0%	

p < 0.01

表2-8 親子のつながり感と親子での遊びの頻度との関係

		Q03 親子での遊びの頻度				合計	
		1 よく遊べている	2 時々遊べている	3 ほとんど遊べていない	4 まったく遊べていない		
Q6 親子のつながり感	1 十分に持てている	度数	225	532	270	20	1047
		Q6 親子のつながり感の%	21.5%	50.8%	25.8%	1.9%	100.0%
	2 ある程度持てている	度数	84	666	499	38	1287
		Q6 親子のつながり感の%	6.5%	51.7%	38.8%	3.0%	100.0%
	3 あまり持てていない	度数	1	14	41	10	66
		Q6 親子のつながり感の%	1.5%	21.2%	62.1%	15.2%	100.0%
合計	度数	310	1212	810	68	2400	
	Q6 親子のつながり感の%	12.9%	50.5%	33.8%	2.8%	100.0%	

p < 0.01

表3-1 保護者の年齢と子どもと充実した時間を過ごしているとの関係

	Q7 子どもと過ごす時間				合計		
	1 十分に過ごせている	2 ある程度過ごせている	3 あまり過ごせていない	4 まったく過ごせていない			
B.B 年齢変換(年代別)	1 20歳代	度数	3	19	10	1	33
		B.B 年齢変換(年代別)の%	9.1%	57.6%	30.3%	3.0%	100.0%
	2 30歳代	度数	177	717	162	3	1059
		B.B 年齢変換(年代別)の%	16.7%	67.7%	15.3%	.3%	100.0%
	3 40歳代	度数	232	782	169	5	1188
		B.B 年齢変換(年代別)の%	19.5%	65.8%	14.2%	.4%	100.0%
	4 50歳代以上	度数	18	38	10	0	66
		B.B 年齢変換(年代別)の%	27.3%	57.6%	15.2%	.0%	100.0%
合計	度数	430	1556	351	9	2346	
	B.B 年齢変換(年代別)の%	18.3%	66.3%	15.0%	.4%	100.0%	

p<0.05

表3-2 就労状況と子どもと過ごす時間との関係

	Q7 子どもと過ごす時間				合計		
	1 十分に過ごせている	2 ある程度過ごせている	3 あまり過ごせていない	4 まったく過ごせていない			
就労状況	1 常勤	度数	71	297	91	3	462
		F 就労状況の%	15.4%	64.3%	19.7%	.6%	100.0%
	2 パート・アルバイト等	度数	167	699	162	5	1033
		F 就労状況の%	16.2%	67.7%	15.7%	.5%	100.0%
	3 現在は職についていない	度数	196	583	106	1	886
		F 就労状況の%	22.1%	65.8%	12.0%	.1%	100.0%
合計	度数	434	1579	359	9	2381	
	F 就労状況の%	18.2%	66.3%	15.1%	.4%	100.0%	

p<0.01

表3-3 夫婦の仲とQ7 子どもと過ごす時間のクロス表

	Q7 子どもと過ごす時間				合計		
	1 十分に過ごせている	2 ある程度過ごせている	3 あまり過ごせていない	4 まったく過ごせていない			
夫婦の仲	1 夫婦の仲がよい	度数	392	1305	248	6	1951
		Q21F 夫婦の仲の%	20.1%	66.9%	12.7%	.3%	100.0%
	2 夫婦の仲が悪い	度数	21	133	59	2	215
		Q21F 夫婦の仲の%	9.8%	61.9%	27.4%	.9%	100.0%
合計	度数	413	1438	307	8	2166	
	Q21F 夫婦の仲の%	19.1%	66.4%	14.2%	.4%	100.0%	

p<0.01

表4-1 保護者の年齢と親子のつながり感のクロス表との関係

			Q6 親子のつながり感			合計
			1 十分に 持っている	2 ある程度 持っている	3 あまり持 てていない	
保護者の 年齢	1 20歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	10 30.3%	19 57.6%	4 12.1%	33 100.0%
	2 30歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	445 42.1%	582 55.1%	29 2.7%	1056 100.0%
	3 40歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	544 45.8%	617 51.9%	27 2.3%	1188 100.0%
	4 50歳代以上	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	29 43.9%	35 53.0%	2 3.0%	66 100.0%
合計			1028 43.9%	1253 53.5%	62 2.6%	2343 100.0%

p < 0.05

表4-2 夫婦の仲と親子のつながり感との関係

			Q6 親子のつながり感			合計
			1 十分に 持っている	2 ある程度 持っている	3 あまり持 てていない	
夫婦 の仲	1 夫婦の仲がよい	度数 Q21F 夫婦の仲 の %	886 45.5%	1019 52.3%	43 2.2%	1948 100.0%
	2 夫婦の仲が悪い	度数 Q21F 夫婦の仲 の %	73 34.0%	126 58.6%	16 7.4%	215 100.0%
合計			959 44.3%	1145 52.9%	59 2.7%	2163 100.0%

p < 0.01

表5-1 保護者の年齢と子育て不向き感との関係

			Q8 子育て不向き感				合計
			1 よく感じる ことがある	2 時々感じ ることがある	3 あまり感じ ることはない	4 まったく感じ ることはない	
保護者の 年齢	1 20歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	4 12.1%	24 72.7%	5 15.2%	0 .0%	33 100.0%
	2 30歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	91 8.7%	533 51.2%	354 34.0%	63 6.1%	1041 100.0%
	3 40歳代	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	68 5.8%	527 45.3%	473 40.6%	96 8.2%	1164 100.0%
	4 50歳代以上	度数 B.B 年齢変換 (年代別) の %	2 3.1%	26 40.0%	27 41.5%	10 15.4%	65 100.0%
合計			165 7.2%	1110 48.2%	859 37.3%	169 7.3%	2303 100.0%

p < 0.01

表5-2 子どもの学年変換と子育て不向き感との関係

		Q8 子育て不向き感				合計	
		1 よく感じる ことがある	2 時々感じる ことがある	3 あまり感じる ことはない	4 まったく感じる ことはない		
子どもの 学年	1 低学年(1-2年生)	度数	51	265	151	26	493
		H.H 学年変換(低・ 中・高学年別)の%	10.3%	53.8%	30.6%	5.3%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	56	364	288	58	766
		H.H 学年変換(低・ 中・高学年別)の%	7.3%	47.5%	37.6%	7.6%	100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数	60	511	432	91	1094
		H.H 学年変換(低・ 中・高学年別)の%	5.5%	46.7%	39.5%	8.3%	100.0%
合計		度数	167	1140	871	175	2353
		H.H 学年変換(低・ 中・高学年別)の%	7.1%	48.4%	37.0%	7.4%	100.0%

p<0.01

表5-3 就労状況と子育て不向き感との関係

		Q8 子育て不向き感				合計	
		1 よく感じる ことがある	2 時々感じる ことがある	3 あまり感じる ことはない	4 まったく感じる ことはない		
就労 状況	1 常勤	度数	22	199	193	40	454
		F 就労状況の%	4.8%	43.8%	42.5%	8.8%	100.0%
	2 パート・アルバイト等	度数	69	499	367	77	1012
		F 就労状況の%	6.8%	49.3%	36.3%	7.6%	100.0%
	3 現在は職について いない	度数	76	439	302	55	872
		F 就労状況の%	8.7%	50.3%	34.6%	6.3%	100.0%
合計		度数	167	1137	862	172	2338
		F 就労状況の%	7.1%	48.6%	36.9%	7.4%	100.0%

p<0.01

表5-4 夫婦の仲と子育て不向き感との関係

		Q8 子育て不向き感				合計	
		1 よく感じる ことがある	2 時々感じる ことがある	3 あまり感じる ことはない	4 まったく感じる ことはない		
夫婦 の仲	1 夫婦の仲がよい	度数	126	885	755	153	1919
		Q21F 夫婦の仲の%	6.6%	46.1%	39.3%	8.0%	100.0%
	2 夫婦の仲が悪い	度数	28	129	48	7	212
		Q21F 夫婦の仲の%	13.2%	60.8%	22.6%	3.3%	100.0%
合計		度数	154	1014	803	160	2131
		Q21F 夫婦の仲の%	7.2%	47.6%	37.7%	7.5%	100.0%

p<0.01

(注意) 以下表6の1~5について

設問項目「親子の会話」「親子での遊び」「親子での充実した時間が過ごせている」「親子のつながり感」「子育て不向き感」の5項目をそれぞれ1~4点として処理。高得点のほうが親子関係がよい状態とみなした。

表6-1 回答者別親子関係得点

回答者	平均値	度数
1 父親	16.02	166
2 母親	15.44	2166
3 その他	14.7	10
合計	15.47	2342

(p<0.01)

表6-2 保護者の年齢別親子関係得点

年齢	平均値	度数
1 20歳代	14.32	31
2 30歳代	15.41	1028
3 40歳代	15.56	1158
4 50歳代以上	15.77	61
合計	15.48	2278

(p<0.05)

表6-3 下校時の保護者の在宅別親子関係得点

下校時の保護者の在宅	平均値	度数
1 在宅	15.65	1229
2 時々不在	15.41	712
3 不在	14.97	386
合計	15.46	2327

($p < 0.01$)

表6-4 子どもの性別親子関係得点

子どもの性別	平均値	度数
1 男	15.35	1165
2 女	15.59	1165
合計	15.47	2330

($p < 0.05$)

表6-5 兄弟数別親子関係得点

I_I 兄弟数	平均値	度数
1 1人	15.76	358
2 2人	15.49	1312
3 3人	15.33	533
4 4人以上	15.05	110
合計	15.48	2313

($p < 0.05$)

表7-1 子どもの性別と群れ遊びの状況との関係

		Q5 群れ遊びの状況					合計	
		1 よくしている	2 時々している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	5 把握していない		
子どもの性別	1 男	度数	687	347	140	28	2	1204
	G 子どもの性別の%		57.1%	28.8%	11.6%	2.3%	.2%	100.0%
	2 女	度数	497	459	196	41	1	1194
	G 子どもの性別の%		41.6%	38.4%	16.4%	3.4%	.1%	100.0%
合計	度数	1184	806	336	69	3	2398	
	G 子どもの性別の%		49.4%	33.6%	14.0%	2.9%	.1%	100.0%

$p < 0.01$

表7-2 子どもの学年と群れ遊びの状況との関係

		Q5 群れ遊びの状況					合計	
		1 よくしている	2 時々している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	5 把握していない		
子どもの学年	1 低学年(1-2年生)	度数	271	172	48	11	0	502
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%		54.0%	34.3%	9.6%	2.2%	.0%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	404	248	111	20	1	784
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%		51.5%	31.6%	14.2%	2.6%	.1%	100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数	505	388	176	38	2	1109
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%		45.5%	35.0%	15.9%	3.4%	.2%	100.0%
合計	度数	1180	808	335	69	3	2395	
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%		49.3%	33.7%	14.0%	2.9%	.1%	100.0%

$p < 0.01$

表7-3 下校時の保護者の有無と群れ遊びの状況との関係

		Q5 群れ遊びの状況					合計	
		1 よくしている	2 時々している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	5 把握していない		
下校時の保護者の有無	1 在宅	度数 E 下校時の保護者の有無の%	596 47.1%	434 34.3%	192 15.2%	43 3.4%	0 .0%	1265 100.0%
	2 時々不在	度数 E 下校時の保護者の有無の%	362 49.4%	257 35.1%	99 13.5%	13 1.8%	2 .3%	733 100.0%
	3 不在	度数 E 下校時の保護者の有無の%	226 56.9%	116 29.2%	42 10.6%	13 3.3%	0 .0%	397 100.0%
合計	度数 E 下校時の保護者の有無の%	1184 49.4%	807 33.7%	333 13.9%	69 2.9%	2 .1%	2395 100.0%	

p<0.01

表8-1 子どもの学年と他年代との交流頻度との関係

		Q17 他年代との交流頻度				合計	
		1 よくある	2 時々ある	3 ほとんどない	4 まったくない		
子どもの学年	1 低学年(1-2年生)	度数 H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	188 37.8%	212 42.6%	85 17.1%	13 2.6%	498 100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数 H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	227 29.4%	394 51.0%	136 17.6%	15 1.9%	772 100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数 H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	263 23.9%	530 48.2%	263 23.9%	43 3.9%	1099 100.0%
合計	度数 H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	678 28.6%	1136 48.0%	484 20.4%	71 3.0%	2369 100.0%	

p<0.01

表8-2 保護者の年齢と他年代との交流頻度との関係

		Q17 他年代との交流頻度				合計	
		1 よくある	2 時々ある	3 ほとんどない	4 まったくない		
保護者の年齢	1 20歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	10 30.3%	18 54.5%	3 9.1%	2 6.1%	33 100.0%
	2 30歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	343 32.6%	483 45.9%	199 18.9%	27 2.6%	1052 100.0%
	3 40歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	294 25.1%	586 50.1%	253 21.6%	36 3.1%	1169 100.0%
	4 50歳代以上	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	16 24.2%	32 48.5%	14 21.2%	4 6.1%	66 100.0%
合計	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	663 28.6%	1119 48.2%	469 20.2%	69 3.0%	2320 100.0%	

p<0.01

表8-3 他年代世代との交流の内容

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
子ども会	Q18-1	589	8.5	25.5
老人会	Q18-2	14	.2	.6
近隣の人	Q18-3	1262	18.1	54.6
集団登校	Q18-4	231	3.3	10.0
学校の行事	Q18-5	1042	15.0	45.1
地域の行事	Q18-6	910	13.1	39.4
ごみ拾い	Q18-7	326	4.7	14.1
習い事	Q18-8	1293	18.6	55.9
公園	Q18-9	469	6.7	20.3
児童館	Q18-10	392	5.6	17.0
学童保育	Q18-11	151	2.2	6.5
まったくない	Q18-12	71	1.0	3.1
その他	Q18-13	140	2.0	6.1
スポーツ	Q18-14	68	1.0	2.9
Total responses		6958	100.0	301.1

110 missing cases; 2,311 valid cases

表9-1 子どもの学年とボランティア活動との関係

		Q19 ボランティア活動				合計	
		1 現在、活動している	2 以前、したことがある	3 まったくしたことがない	4 わからない		
子どもの学年	1 低学年(1-2年生)	度数	11	61	391	28	491
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	2.2%	12.4%	79.6%	5.7%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	25	129	533	77	764
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	3.3%	16.9%	69.8%	10.1%	100.0%
	3 高学年(5-6年生)	度数	33	232	705	99	1069
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	3.1%	21.7%	65.9%	9.3%	100.0%
合計	度数	69	422	1629	204	2324	
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	3.0%	18.2%	70.1%	8.8%	100.0%	

p < 0.01

表9-2 子どもの性別とボランティア活動との関係

		Q19 ボランティア活動				合計	
		1 現在、活動している	2 以前、したことがある	3 まったくしたことがない	4 わからない		
子どもの性別	1 男	度数	26	190	843	105	1164
		G 子どもの性別の%	2.2%	16.3%	72.4%	9.0%	100.0%
	2 女	度数	42	232	791	98	1163
		G 子どもの性別の%	3.6%	19.9%	68.0%	8.4%	100.0%
合計	度数	68	422	1634	203	2327	
	G 子どもの性別の%	2.9%	18.1%	70.2%	8.7%	100.0%	

p < 0.05

表10 家庭内は、子どもにとって過ごしやすい環境になっていると思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 十分なっている	611	25.2	26.0	26.0
	2 ある程度なっている	1571	64.9	66.9	92.9
	3 あまりなっていない	160	6.6	6.8	99.7
	4 まったくなっていない	7	.3	.3	100.0
	合計	2349	97.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	72	3.0		
合計		2421	100.0		

表11 住まいの地域は、子どもにとって過ごしやすい環境になっていると思う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 十分なっている	740	30.6	31.4	31.4
	2 ある程度なっている	1393	57.5	59.2	90.6
	3 あまりなっていない	199	8.2	8.5	99.0
	4 まったくなっていない	23	1.0	1.0	100.0
	合計	2355	97.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	66	2.7		
合計		2421	100.0		

表12 子ども達の環境をよくするためにできる取り組み内容

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
人の家の前にごみが落ちていたら拾う	Q25-1	854	11.2	36.5
近所の人に挨拶をする	Q25-2	2255	29.5	96.3
道を行く子どもたちに挨拶をする	Q25-3	1156	15.1	49.4
知らない人に挨拶をする	Q25-4	281	3.7	12.0
困っている人がいたら、声をかける	Q25-5	1495	19.6	63.8
地域の行事に参加する	Q25-6	1357	17.8	57.9
子どもたちの安全のために、登下校時に散歩	Q25-7	197	2.6	8.4
その他	Q25-8	37	.5	1.6
Total responses		7632	100.0	325.9

79 missing cases; 2,342 valid cases

表13-1 育った環境で子どもたちが大人になったとき、その未来は明るいもの
あると思う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
1 とても思う	64	2.6	2.8	2.8
2 ある程度そう思う	1376	56.8	59.1	61.9
3 あまりそう思わない	818	33.8	35.2	97.0
4 まったくそう思わない	69	2.9	3.0	100.0
合計	2327	96.1	100.0	
欠損値	システム欠損値	94	3.9	
合計		2421	100.0	

表13-2 回答者と子どもたちの未来の明るさとの関係

	Q24 子どもたちの未来				合計		
	1 とても思う	2 ある程度 度そう思う	3 あまりそ う思わない	4 まったくそ う思わない			
A 回答者	1 父親	度数	8	108	45	3	164
		A 回答者の%	4.9%	65.9%	27.4%	1.8%	100.0%
2 母親	度数	56	1262	768	66	2152	
	A 回答者の%	2.6%	58.6%	35.7%	3.1%	100.0%	
3 その他	度数	0	4	4	0	8	
	A 回答者の%	.0%	50.0%	50.0%	.0%	100.0%	
合計	度数	64	1374	817	69	2324	
	A 回答者の%	2.8%	59.1%	35.2%	3.0%	100.0%	

p<0.01

(注意：その他を除き、父親と母親間で検定を行った)

表13-3 子どもの兄弟の人数と子どもたちの未来との関係

	Q24 子どもたちの未来				合計	
	1 とても思う	2 ある程度 度そう思う	3 あまりそ う思わない	4 まったくそ う思わない		
1	度数	8	203	133	12	356
	I 子どもの兄弟の人数の%	2.2%	57.0%	37.4%	3.4%	100.0%
2	度数	34	797	436	34	1301
	I 子どもの兄弟の人数の%	2.6%	61.3%	33.5%	2.6%	100.0%
3	度数	19	305	189	18	531
	I 子どもの兄弟の人数の%	3.6%	57.4%	35.6%	3.4%	100.0%
4	度数	2	45	41	2	90
	I 子どもの兄弟の人数の%	2.2%	50.0%	45.6%	2.2%	100.0%
5	度数	0	4	5	1	10
	I 子どもの兄弟の人数の%	.0%	40.0%	50.0%	10.0%	100.0%
6	度数	0	2	3	0	5
	I 子どもの兄弟の人数の%	.0%	40.0%	60.0%	.0%	100.0%
8	度数	0	0	0	1	1
	I 子どもの兄弟の人数の%	.0%	.0%	.0%	100.0%	100.0%
合計	度数	63	1356	807	68	2294
	I 子どもの兄弟の人数の%	2.7%	59.1%	35.2%	3.0%	100.0%

p<0.01

表13-4 群れ遊びの状況 子どもたちの未来との関係

			Q24 子どもたちの未来				合計
			1 とても思う	2 ある程度 度そう思う	3 あまりそ う思わない	4 まったくそ う思わない	
Q5 群れ 遊び の状 況	1 よくしている	度数	40	694	394	27	1155
		Q5 群れ遊びの状況の%	3.5%	60.1%	34.1%	2.3%	100.0%
	2 時々している	度数	19	463	272	23	777
		Q5 群れ遊びの状況の%	2.4%	59.6%	35.0%	3.0%	100.0%
	3 あまりしていない	度数	4	176	127	15	322
		Q5 群れ遊びの状況の%	1.2%	54.7%	39.4%	4.7%	100.0%
	4 まったくしていない	度数	1	39	23	3	66
		Q5 群れ遊びの状況の%	1.5%	59.1%	34.8%	4.5%	100.0%
	5 把握していない	度数	0	1	1	1	3
		Q5 群れ遊びの状況の%	.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
合計	度数	64	1373	817	69	2323	
	Q5 群れ遊びの状況の%	2.8%	59.1%	35.2%	3.0%	100.0%	

p<0.05

表13-5 他年代との交流頻度 と子どもたちの未来との関係

			Q24 子どもたちの未来				合計
			1 とても思う	2 ある程 度そう思う	3 あまりそ う思わない	4 まったくそ う思わない	
Q17 他年 代との 交流 頻度	1 よくある	度数	24	390	226	22	662
		Q17 他年代との 交流頻度の%	3.6%	58.9%	34.1%	3.3%	100.0%
	2 時々ある	度数	33	678	377	19	1107
		Q17 他年代との 交流頻度の%	3.0%	61.2%	34.1%	1.7%	100.0%
	3 ほとんどない	度数	7	259	178	18	462
		Q17 他年代との 交流頻度の%	1.5%	56.1%	38.5%	3.9%	100.0%
	4 まったくない	度数	0	27	33	8	68
		Q17 他年代との 交流頻度の%	.0%	39.7%	48.5%	11.8%	100.0%
合計	度数	64	1354	814	67	2299	
	Q17 他年代との 交流頻度の%	2.8%	58.9%	35.4%	2.9%	100.0%	

p<0.01

表13-6 家庭内環境 と子どもたちの未来との関係

			Q24 子どもたちの未来				合計
			1 とても思う	2 ある程 度そう思う	3 あまりそ う思わない	4 まったくそ う思わない	
Q20 家庭 内環 境	1 十分なっている	度数	34	404	146	16	600
		Q20 家庭内環境の%	5.7%	67.3%	24.3%	2.7%	100.0%
	2 ある程度なっている	度数	28	908	573	37	1546
		Q20 家庭内環境の%	1.8%	58.7%	37.1%	2.4%	100.0%
	3 あまりなっていない	度数	2	55	87	13	157
		Q20 家庭内環境の%	1.3%	35.0%	55.4%	8.3%	100.0%
	4 まったくなっていない	度数	0	2	3	1	6
		Q20 家庭内環境の%	.0%	33.3%	50.0%	16.7%	100.0%
合計	度数	64	1369	809	67	2309	
	Q20 家庭内環境の%	2.8%	59.3%	35.0%	2.9%	100.0%	

p<0.01

表13-7 地域環境と子どもたちの未来との関係

		Q24 子どもたちの未来				合計	
		1 とても思う	2 ある程度 思う	3 あまり 思わない	4 まったく 思わない		
Q22 地域 環境	1 十分なっている	度数	50	501	165	15	731
		Q22 地域環境の%	6.8%	68.5%	22.6%	2.1%	100.0%
	2 ある程度なっている	度数	11	806	519	27	1363
		Q22 地域環境の%	.8%	59.1%	38.1%	2.0%	100.0%
	3 あまりなっていない	度数	2	63	114	17	196
		Q22 地域環境の%	1.0%	32.1%	58.2%	8.7%	100.0%
	4 まったくなっていない	度数	1	1	12	9	23
		Q22 地域環境の%	4.3%	4.3%	52.2%	39.1%	100.0%
合計	度数	64	1371	810	68	2313	
	Q22 地域環境の%	2.8%	59.3%	35.0%	2.9%	100.0%	

p < 0.01

学童期における親子関係・環境と子どもの性の成長発達に関する保護者の認識との関連に関する研究

鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学

小学生をもつ保護者を対象に、親子関係・環境と保護者の認識における子どもの性の発達との関連をみるための調査をおこなった。得られた知見を以下に示す。

1. 小学生では、子どもの性の発達に困っていない保護者は94.2%であった。
2. 親子関係や夫婦関係の不安定さと子どもの性の成熟度や関心度に対する保護者の認識とは、関連があった。
3. 子どもが過ごしやすい環境になっていないと感じている保護者のほうが、子どもの性の成長発達に関する困りごとがあった。
4. 就労している保護者のほうが、子どもの性の成長発達が早めだと回答するものが多かった。
5. 小学生で性の会話をしている親子は、24.2%いた。
6. 学校性教育に望むことは、「命の大切さを伝えること」「性について正しい知識をつけること」「豊かな人間を形成すること」などの回答が多かった。多様であった。
7. 「命の大切さ」は、多くの保護者が望む学校性教育であった。
8. 学校性教育への期待に「コミュニケーション力をつけること」と回答した保護者は、男児を持つ保護者に多い傾向にあった。
9. 学校性教育への期待に「意図しない妊娠を避けること」を回答した保護者は、普段親子のつながり感が持てていない傾向にあった。
10. 親子で性の会話をしているものと、学校性教育への期待で「性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させること」「意図しない妊娠をさける」を回答したものの関連があった。

I. 研究の目的

親子関係や子どもたちを取り巻く環境と性意識・性行動には関連があることが、最近の研究（北村邦夫分担班）からわかっている。今回、小学生の親子関係や子どもたちを取り巻く環境と、性に関する子どもの性の成長発達に関する保護者の認識を、質問紙により調査し、それらの関連をみたので報告する。

II. 研究の方法

1. 調査対象および方法

千葉県印西市内の小学生をもつ保護者全数(13校、3,296人)を対象に、回答者と子どもの属性、親子関係、子どもを取り巻く環境（家庭、地域、情報、交流の状況）、子どもの性の成長発達に関する保護者の認識や実態について、自記式質問紙

法による調査をおこなった。小学校を通して調査票を家庭に配布し回収した。

2. 調査期間

調査は、平成16年9月13日から9月22日の間に実施した。

3. 分析方法

回収した調査票のうちの有効回答（2,421票）について、子どもを取り巻く環境に関連する各項目の有効回答票（有効パーセント）より、集計・分析をすすめた。分析には、SPSS11.5Jを使用した。

IV. 結果

1. 子どもの性の発達に関する困りごと

「とても困っている」「ある程度困っている」を合わせると5.8%と少なかった。子どもの性の発達に困っていない保護者は94.2%であった。(表1)。

また、子どもの性の発達に関する困りごとがあるのものには、親子のつながり感がない、子育て不向き感がある、子どもの生活習慣が整っていない、子どものボランティア経験がない、高学年である、群れ遊びをしていない、家庭や地域の環境が整っていないという傾向がみられた(表2~9)。

困っている内容(複数回答)は、「思春期の子どもの心理面、扱い方」が68.3%と最も多く、以降順に「性について聞かれたときの答え方」52.8%、「性の情報が子どもの目に触れること」42.3%、「子どもの体の成長について」26.2%、「親から子への性教育は必要か」21.1%であった(表10)。

2. 子どもの性の関心度に対する認識

「とても持っている」は1.6%と少なく、「ある程度持っている」と合わせて28.6%であった。「わからない(気にしたことがない)」が13.2%いることがわかった(表11)。

また、子どもが性について関心をもっているとは回答したものには、高学年である、夫婦の仲が悪い、親子のつながり感がない、親子での遊びをしていない、子どもの生活習慣が整っていないと回答するものが多い傾向にあった(表12~16)。

3. 子どもの(性の)成熟度に対する認識

「とても早いほうだと思う」は1.4%と少なく、「やや早いほうだと思う」と合わせて14.3%であった。「わからない(気にしたことがない)」が35.4%と多いことがわかった。(表17)

また、子どもの性の成熟が早いほうと感じているものには、女兒、高学年である、就労している、子どもの前でけんかをする夫婦関係である、親子のつながり感がない傾向にあった(表18~22)。

4. 親子の性に関する会話

「十分している」は1.4%と少なく、「ある程度している」と合わせて24.2%と多かった。(表23)

また、親子で性の会話をしているものの特徴は、母親である、女兒、就労している、親子の会話がある、親子のつながり感がある、ボランティア経

験がある、であった(表24~28)。

5. 学校でおこなわれる性教育の把握状況

「把握していない」が50.7%で最も多かった。「子どもから聞いている」は24.6%、「学校から知らされている」は19.0%、「友人から聞いている」は5.7%であった(表29)。

6. 学校性教育で重点的にしてほしいこと

学校性教育への希望(複数回答)については、「命の大切さを伝えること」が84.7%と最も多く、以降順に「性について正しい知識を伝えること」68.7%、「豊かな人間形成形成すること」36.8%、「性に関する適切な情報提供をすること」29.9%、「望ましい異性観をもつこと」24.7%、「コミュニケーション力をつけること」12.4%であった(表30)。

7. 保護者の学校性教育への希望と保護者の特徴や認識、実態との関連

各項目での有意な関連があったものについて、その特徴は以下の通りであった。

(1) 命の大切さを伝えること(表31)

- ・親子の会話をしている
- (2) 性の正しい知識をつけること(表32)
- ・回答者が母親である
- ・祖父母と同居している家庭にある保護者
- (3) 豊かな人間形成(表33, 34)
- ・回答者が父親である
- ・年齢の高い保護者
- ・常勤勤務の保護者
- ・親子のつながり感を持てている
- ・子育て不向き感を感じていない
- ・子どもが性に関心を持っていないと認識している保護者

(4) 意図しない妊娠を避けること(表35, 36)

- ・女兒をもつ保護者
- ・年齢が若い保護者
- ・子どもの性への発達に困りごとがある保護者
- ・親子で性の会話をしている
- ・子どもが性の成熟度は早いほうと認識している保護者

- ・親子のつながり感を持てていない

- ・子育て不向き感を感じている

(5) 望ましい異性観をもつこと